



セコム株式会社
株主通信

6月
2009年

第48期決算報告

サービスの融合化で
更なる成長をめざす

セコムグループの現況と今後の課題について、
社長の原口兼正から
ご説明させていただきます。

セコム株式会社 代表取締役社長

原口 兼正



2 009年3月期の連結業績について、
所感をお聞かせください。

売上高は前期比0.6%、営業利益は前期比16.3%の減少となりました。その主たる要因は不動産開発・販売事業の不振と販売用不動産評価損などの計上です。セグメント別に見ると、セキュリティサービス事業では0.5%の増収でしたが、営業利益は3.2%の減益でした。これは、商品売上および工事売上の減少、退職給付費用の増加によるものです。厳しい経済環境が続く中、高品質なサービスの提供を維持して、競争力の強化に努めました。防災事業では営業利益が12.3%の増益。メディカルサービス事業、地理情報サービス事業、情報通信・その他の事業でも営業利益は増益となっています。保険事業でも営業損失が前期の24億円から3億円へと大幅に改善しています。

当 期の1株当たり期末配当金を
前期と同じ85円にしたのはなぜですか。

当期の業績の悪化は一過性であると判断し、株主の皆様への利益還元を優先しました。また、株主還元の充実を図るため、昨年11月から12月にかけて300億円の自己株式取得も行っています。

セ コムグループの現況と今後については
どのように考えていますか。

<セキュリティサービス事業>では、新しいお客様の開拓と既存のお客様への付加価値サービスの提供で、さらなる成長をめざしています。営業活動では、原点に立ち戻り、新規のお客様を一件一件訪問し、説得し、成約するという地域に密着した営業を推進、成果を上げています。また、生活支援サービス

「セコム・ホームサービス」など「セコム・ホームセキュリティ」のお客向けサービスの拡充に力を入れています。

＜防災事業＞では、リニューアルマーケットに期待しています。施設のリニューアルには、自動火災報知設備の入れ替えが伴います。入れ替えは、新築時に施工した会社であれば、既存システムを熟知しており、機器の互換性も高いことから、リニューアルの範囲や期間も含めて柔軟かつ容易に対応できます。このため、自動火災報知設備トップシェアの能美防災(株)は競争上優位に立っているからです。同社は、消防設備以外にも、時代に沿った新しい防災システムの提供に力を入れており、防災事業は今後も堅調に推移していくと考えています。

＜メディカルサービス事業＞では、経済的にゆとりのある方々が安心して快適な老後を送っていただける、シニアレジデンスの運営を行っています。ご入居時に健常な方を対象にしたシニアレジデンスとしては、「サクラビア成城」「ロイヤルライフ多摩」「コンフォートガーデンあざみ野」に加え、今年6月、神戸市に「コンフォートヒルズ六甲」をオープンしました。また、入居当初から介護を必要とされる方向けには、1棟あたりの居室数を40室程度に抑え、上質なあたたかさを感じられる住まいとして、良質なサービスとアットホームな雰囲気の「アライブケアホーム」を7棟運営、近々、8棟目の建設に着手します。このほか、提携病院の運営支援や、在宅医療中心のクリニックの運営を希望する医師などへの開業支援も行っています。

＜保険事業＞では、主力商品の火災保険の販売が、企業向け、家庭向けともに順調です。また、入院治療費の自己負担分を全額補償するがん保険「自由診療保険メディコム」の販売も好調です。

＜地理情報サービス事業＞では、2007年から始めた衛星

事業が軌道に乗りました。世界最高レベルの画像解像度を持つドイツの商用衛星が撮った画像データと、そのデータを使用目的に応じて加工する空間情報サービスを提供しています。

＜不動産開発・販売事業＞では、販売用不動産および仕掛販売用不動産について、物件特性を総合的に判断し、メリハリをつけた販売戦略を展開していきます。

＜情報通信・その他の事業＞では、大規模災害や新型インフルエンザ発生時に、社員や家族の安否と現地の状況を迅速かつ正確に把握し、事業の継続と早期復旧を支援する「セコム安否確認サービス」のご利用者が増えています。

そ れらのサービスの統合化・融合化が今後の課題ですか。

サービスの多重化が年々進んでいます。たとえば、一件のご家庭に対し、「セコム・ホームセキュリティ」と生活支援サービス、防犯合わせガラスや防盜性の高い金庫などの安全商品、位置情報提供サービス「ココセコム」、在宅医療サービス、住宅総合保険「セコム安心マイホーム保険」、「自由診療保険メディコム」などをご提供しています。こうした「安全・安心」をセコムに連絡するだけで利用できることはお客様にとってたいへん便利なことですが、当社がめざしているのは、それらのサービスの統合化・融合化による相乗効果で、新しい価値を創造することです。「セコム・ホームセキュリティ」と損害保険の一体提供から生まれた「セコム安心マイホーム保険」はその一つの例で、保険料が大幅に安くなる、より安心感が高まるというメリットを生み出しています。今後も個々の事業・サービスの拡充を進めるとともに、それらの事業・サービスの統合化・融合化を進め、より安全で便利で快適な社会の実現に貢献したいと考えています。

社会の役に立つ事業

今年は「社会システム産業元年」を宣言して20年になります。

その現状報告の第一弾として、「社会システム産業」の中核を成すセキュリティサービス事業が
いかに社会を支えているかについて、2008年6月号でご紹介しました。

今号はその第二弾として、防災、メディカルサービス、保険、地理情報サービス、不動産、情報系の事業が
いかに社会の役に立っているかについてご紹介します。

防災事業

住宅火災による死者数を減らす

住宅からトンネルまで多様な施設に自動火災報知設備や消火設備などの防災システムを提供している能美防災(株)が、2006年の消防法の改正で設置が義務付けられた住宅用火災警報器の販売に積極的に取り組んでいます。

総務省消防庁の統計によると、わが国の火災発生件数は年間約6万件、その6割が建物火災で死者数は約1500人、うち約1200人が住宅火災で亡くなっています。この死者数が増加傾向にあること、亡くなった人の約6割が高齢者で逃げ遅れが主な死亡原因であることから、火災をすばやく



能美防災(株)メヌマ工場

感知する火災警報器の設置が義務化されたものです。その効果は——アメリカでは、設置が義務化になった1970年代後半と、95%を超える住宅に設置されている現在とを比べると、死者数がかつての半分以下に減っていることでも明らかです。

防災業界トップの能美防災は死者数を減らすことを使命と考え、住宅用火災警報器「まもるくん10」の普及促進に全力を傾けています。なお、セコムでも「ホーム火災センサー」として、住宅用火災警報器の普及に力を入れています。



「ホーム火災センサー」煙式(光電式)

また、築年数の経過したビルでは、設備の劣化から、自動火災報知設備などのリニューアルの需要が高まっており、そうした防災設備の更新にも積極的に取り組んでいます。

メディカルサービス事業

セコム医療システム(株)を中心に、健康、医療、介護・福祉の分野で多彩なサービスを提供。その充実ぶりから、「企業でメディカルサービスをトータルに提供しているのはセコムだけ」と評価されています。

自宅での療養を手助けする

メディカルサービス事業の柱は、1991年から取り組んできた在宅医療サービスで、全国39カ所の訪問看護ステーションを拠点に看護師が自宅療養中の患者さんを訪ね、主治医の指示にもとづき医療的処置を行う「訪問看護サービス」と、東京・大阪のセコム薬局で調剤した薬剤をお届けする「薬剤提供サービス」を提供しています。

また、ご契約先の医療機関から送られてきたCTやMRIの画像を専門医が読影し、診断結果をレポートにして送り返す遠隔画像診断支援サービス「ホスピネット」や、在宅医療の現場でも利用できる本格的な共同利用型「セコム・ユビキタス電子カルテ」などを提供しています。

“快適に年を重ねていく”という選択肢を提供する

セコムならではのシニアレジデンスの運営も手がけています。

これまで、世田谷区の「サクラピア成城」、
町田市の「ロイヤルライフ多摩」、
横浜市の「コンフォートガーデ

「コンフォートヒルズ六甲」

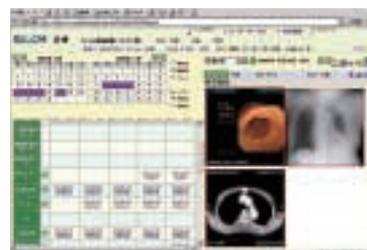
ンあざみ野」、および7カ所の「アライブケアホームシリーズ」と、いずれも東京都、神奈川県に開設してきました。

最新の施設は今年6月に神戸市にオープンした「コンフォートヒルズ六甲」で、関西で初というだけでなく、従来の高齢者施設にはない特徴を持っています。その一つは、同じ敷地内にある神戸海星病院と建物が直結しており、

ホームドクターの役割を果たしていること、もう一つは、ちょっとした介助があれば一般居室で自立した生活を送れる居住者の方専用の入浴や食事やリハビリのためのエリアを設けていることです。このほか、安藤忠雄氏設計の全戸南向きで神戸の町並みと神戸港を一望にできる中層の建物と、自然に囲まれて四季の移ろいを感じることのできる低層の建物のいずれかを選択できることも大きな魅力になっています。



「訪問看護サービス」



「セコム・ユビキタス電子カルテ」

保険事業

少ない負担で大きな安心を実現する

セコム損害保険(株)では、さまざまな商品をラインナップしていますが、その中で最も人気が高いのが、家庭向けの「セコム安心マイホーム保険」と企業向けの「火災保険セキュリティ割引」です。

「セコム安心マイホーム保険」は、ホームセキュリティを導入している住宅は、導入していない住宅に比べて火災の危険が少ないため、既存の住宅総合保険に比べて最大で約26%保険料が安くなります。加えて、お客様の要望に応じて補償内容を自由に設定できるため、たとえば水災の危険が少ない地域では、この補償を外すなどによって、保険料を最大で約60%安くすることができます。また、オール電化住宅や耐火性に優れた住宅は火災の危険が少ないため、保険料がさらに安くなります。

「火災保険セキュリティ割引」も、オンラインセキュリティを導入していれば、リスク軽減効果により、保険料が最大で約30%安くなります。このように、セキュリティと保険を一体的に提供することにより、お客様に少ない負担でより確かな安心を得ていただいています。

入院治療費の自己負担分を全額補償する

業界に先駆けて開発し商品化した「自由診療保険メディコム」が順調に契約を増やしています。これは自由診療、公的保険診療を問わず、がんの入院治療にかかった費用の自己負担分を全額補償するこれまでにない保険で、がん治療準備保険金、がん入院諸費用保険金、がん退院療養保険金が定額で支払われます。また、自由診療にも対応する医療機関やセカンドオピニオン外来のある医療機関のご案内などのサポートも充実しています。

この「メディコム」の補償内容を今年4月から一部改定しました。これまで、がんで通院した場合の補償日数は通院開始から180日以内と制限を付けていましたが、この日数制限がなくなりました。また、通院は手術か先進医療を伴う場合のみを補償対象としていましたが、がん治療の通院はすべて補償することにしました。近年、がん治療は入院による治療より通院による治療が重視されるようになってきたことに対応したものです。セコム損害保険では、お客様が求める商品やサービスを利用しやすい価格で提供し、お客様に喜んでいただいています。

地理情報サービス事業

空間情報を社会の基盤づくりに役立てる

(株)パスコは2年前から、従来の測量事業に加え、衛星事業を展開しています。

2007年に世界最高の画像解像度を持つドイツの商用衛星「Terra SAR-X」が打ち上げられましたが、この衛星が撮影したデータの日本国内での独占販売権と全世界への販売権を取得していることから、撮影データの提供に力を入れています。

この衛星は全天候型で昼夜を問わず撮影でき、地球を約95分で1周するため撮影頻度が高いという特徴を持っています。撮影データは地震や津波、台風、火山活動の状況把握、また地球温暖化による海面上昇などのモニタリングや被害状況把握などに活用されています。

パスコではまた、この衛星データと各種測量により収集したデータを加工し、空間情報として提供しています。たとえば、自治体向けでは、市町村合併によるシステム化をはじめとするさまざまな業務を支援。民間企業向けでは、GIS(地理情報システム)を活用したエリアマーケティングや物流管理、災害時の事業継続計画の策定支援など、企業経営をサポートするサービスを提供。また海外では、国土開発のための基本図の作成や地震や津波などの危機管理政策の推進支援を行っています。

©PASC0 / Includes material ©JAXA



このように、測量技術やデータの加工技術を駆使して、国内外の社会基盤づくりに貢献しています。

不動産開発・販売事業

安全・安心で高品質な住まいを提供する

東京と仙台で「GLORIO（グローリオ）マンション」を展開しているセコムホームライフ(株)が、現在、東京都世田谷区で「グローリオ蘆花公園」を開発しています。これはスケールの大きなプロジェクトで、京王線「芦花公園駅」より徒歩6分のところにある約4900坪の広大な敷地に、10棟(363邸)を建て、歩道と植栽を配して、一つの街を誕生させようとしています。

建物の強靭性のもとより、建物内にセコムの先進のセキュリティシステムや各種防災設備を導入するなど安全に万全を期しています。また、近隣のセコムの提携病院である久我山病院の協力を得て、かかりつけの医師による医療サービスを提供、さらに24時間対応の電話相談サービスや、暮らしの中で起きるさまざまな「困った」を解決する生活関連サポートサービスを提供するなど、セコムホームライフではこれまでの「グローリオマンション」の集大成と位置づけています。

セコムホームライフは「安全・安心で高品質な住環境」の提供を通して、人々の豊かな暮らしの役に立っています。

情報通信・その他の事業

企業の事業継続と事業再開をサポートする

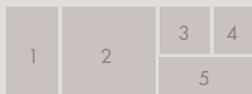
セコムトラストシステムズ(株)が2004年から提供を始めた「セコム安否確認サービス」は、採用企業約1600社・登録者数約170万人の、国内最大級の危機管理サービスとなっています。

短期間でこれほど普及した背景には、阪神淡路大震災以後も災害が相次いだことから企業も人々も真剣に備えを考えるようになったこと、政府も事業継続計画(BCP)のガイドラインを示して企業にBCPの策定と実行を働きかけるようになったことがあります。

また、「セコム安否確認サービス」が機能レンタルサービスのため導入しやすいこと、契約先のさまざまなニーズに対応して機能を拡張できる柔軟なシステムであることも普及拡大の理由です。たとえば、自社の被災状況や社員・家族の安否だけでなく、「お取引先の被災状況や時々刻々と変化する納品見込を知りたい」「海外出張中の社員が災害に遭遇したとき安否を確認したい」というニーズにも対応しています。

昨年8月からは、新型インフルエンザに対応する機能を標準搭載した新バージョンの提供を開始しています。これは、災害種別を選択するだけで社員とその家族の新型インフルエンザの感染状況を確認することができ、企業の危機管理担当者は収集した情報をもとに全社員に的確な指示を出すことで、事業継続への影響を最小限に抑えることができます。今年に入ってメキシコ発の新型インフルエンザが世界中に広まり、日本でも感染者が続出する中で、改めて「セコム安否確認サービス」が注目を集めています。

セコムトラストシステムズでは、今後もIT技術を継続的なサービスとして提供することによって、社会の役に立ちたいと考えています。



- ① セコム損害保険(株)本社
- ② 「TerraSAR-X」撮影データ
- ③ 「セコム安否確認サービス」
- ④ セコムトラストシステムズ(株)の災害監視センター
- ⑤ 「グローリオ蘆花公園」のモデルルーム

セコムの安全思想とシステムで 台湾社会の安全・安心化に貢献

セコムの海外事業は1978年の台湾進出から始まりました。同年1月に台湾の中興保全股份有限公司と営業指導と技術指導についての業務提携を結び、台湾で初となるオンラインセキュリティシステムの提供を開始しました。そして、30年以上が経過した現在、同社は安全産業を創造したパイオニアとして、またセキュリティ業界を牽引するリーディングカンパニーとして、台湾社会で不動の地位を築いています。



1993年には株式を上場 安全産業を確立

「安全に国境はない。人種や国の垣根を越えて人々が求めるものである」——セコムではそう考えて台湾に進出しました。しかし、当初数年間は「安全」を買う企業はほとんどありませんでした。

「安全」は自動車やテレビと違って、安全の必要性、安全を確保するための仕組み、安全確保によって得られる利点を説明し、納得してもらってはじめて一件の契約を取得できるというサービスです。

セコムが日本で経験したように、台湾でも一件、また一件とお客様を訪問し、説得

をし、契約を積み重ねていきました。やがて、セコム方式のセキュリティシステムへの理解が深まり、契約件数の増加に伴って普及の加速度も増していきました。

こうして、1993年には、念願だった株式上場を果たし、台湾にも安全産業という新しい産業を確立しました。以後、順調に契約件数を伸ばし、現在では台湾全土で10万件を超えるお客様にセコム方式で「安全」をお届けしています。

台湾でニーズのあるサービスは 積極的に採用

セコムでは、機器の研究開発、製造、営業、セキュリティプランニング、取付け工事、

24時間監視、緊急対応、メンテナンスまですべて自社で行うトータルパッケージ体制で、オンラインセキュリティシステムを提供しています。

中興保全では、この、セコム方式のオンラインセキュリティシステムをそのまま採用しています。センサーが感知した異常情報をコントロールセンターで一元管理し、緊急対応員を契約先に急行させるというシステムの仕組みも、機器をレンタルし長期契約を結ぶ方式もセコムと同じです。

また、監視カメラや自動消火システムのような売却商品も提供しています。常駐システムを提供する子会社、現金護送システムを提供する子会社もあります。



① 中興保全のBEとビトカー ② 中興保全のコントロールセンター ③ 新自ビル「中興保全内湖(ネイファー)ビル」 ④ ご契約先に貼られたステッカー

そのほか、「ココセコム」をヒントにして独自に開発した位置情報サービスを提供しています。2008年11月には、「AEDパッケージサービス」も開始しています。将来ビジョンとして、台湾版「社会システム産業」の構築を掲げており、セコムのメディカルサービス事業にも関心を持っています。

セコムが展開している事業、サービス・商品で、台湾で市場性のあるものは積極的に採り入れていく——おおらかで、たくましい台湾の国民性を表わしています。

これからホームセキュリティの 販売に乗り出す

中興保全は、現在、事業所数79、社員

数約2300名、創業以来、台湾のセキュリティ会社の中でトップの座を堅持しています。経済界でも国内有数の優良企業としてのステータスを獲得しています。

近年のトピックは、2007年に、本社ビルとは別に、1階をショールーム、2階を開発センター、4階を管制センターにした新しい自ビルを竣工したことです。これから本格的にホームマーケットに乗り出すための布石と考えています。

台湾では、一戸建てに比べて、アパートやマンションが多いという住宅事情もあり、まだまだ、家庭向けのオンラインセキュリティシステムは一般的ではありません。しかし、日本もそうであったように、社会が成熟す

るにつれて、家庭のセキュリティニーズは増えていくことが予測できます。

企業と家庭では求められる「安全」の内容が異なり、普及させるためには、さまざまな対応が必要になります。たとえば、セキュリティシステム操作盤であるコントローラーの仕様もデザインも変える必要があります。

このため、中興保全ではセコムのホームセキュリティシステムを研究、昨年、セコムの技術支援のもと、独自のシステムを完成させました。その販売がこの6月1日から始まっています。中興保全はいま、「第二の創業」の意気込みで、新しい歴史を創ろうとしています。

ATM前の不審人物を自動認識 「振り込め詐欺防止システム」発売

セコムは今年2月、振り込め詐欺の被害防止に向け「振り込め詐欺防止システム」を開発、発売しました。

このシステムは、わが国で初めて、ATMの前での不審な人の行動を画像と音声で自動認識するとともに、注意ガイダンスを音声で現場に流し、振り込め詐欺を防止するものです。2月13日付けの日本経済新聞などでも紹介されました。

ATMコーナーにおいて、お客様が携帯電話を使用しながらATMの操作を行われた場合、振り込め詐欺の被害にあわれているおそれがあるとして、このシステムが判断し自動音声で注意を促します。要請があれば、セコム画像センターに該当のATMコーナーの画像・音声を送信し、セコム画像センターからお客様に、直接ATMに設置しているマイクを通じ、ご案内を行うこともできます。また、意図的に顔を隠したATMの利用者へも、必要に応じて確認を行います。

2月13日より岡山県岡山市に本店のある(株)中国銀行様に第一号のご契約をいただき運用を開始しました。導入してすぐの2月27日には、社会保険料の還付を装った振り込め詐欺被害を防止するなど、すでに効果を発揮しています。また、4月20日からは島根県松江市に本店を構える(株)山陰合同銀行様が運用を開始されました。

振り込め詐欺は、近時では手口が巧妙化するなど、依然として全国的にその発生が後を絶ちません。セコムでは、総力をあげて、「振り込め詐欺防止システム」を全国の金融機関に普及させ、この卑劣な犯罪を一掃することで、社会に貢献していきます。



「振り込め詐欺防止システム」

社会に貢献する「ココセコム」と 「セコムAEDパッケージサービス」

セコムが2001年4月、それまでになかった高度な位置検索技術を使って世の中に送り出した位置情報提供サービス「ココセコム」。サービス開始以来、貢献事例はおよそ



「ココセコム」オペレーションセンター

3600件にのぼっています。その内容も行方不明になった大切な方や盗難車両の捜索はもとより、大切な物が入ったバッグや商品、変わったところ

では青果市場の果実の発見など多岐にわたり、世の中のいたるところでお役に立っています。最近の事例では、2009年5月、兵庫県で発生したATM盗難事件。ココセコムオペレーションセンターのオペレーターの的確な判断と警察の連携で、1時間足らずで容疑者を逮捕。新聞にも大きく掲載されました。「ココセコム」の強みであるオペレーションセンターの判断力を発揮した好事例となりました。

また、貢献事例と言えば、「セコムAEDパッケージサービス」にも多くの事例があります。こちらは2004年9月の発売から約4年半、2009年5月にセコムのAED(自動体外式除細動器)使用による救命事例が200件を突破しました。

救命事例100件を超えたのが2008年5月でしたので、この1年で100名の命を救ったこととなります。この数字は、AEDが広く社会に普及しつつあることを示しています。セコムでは、命を守ることが究極の「安全・安心」と考え、AEDの普及に取り組んできました。その思いが社会に浸透しつつあります。



「セコムAEDパッケージサービス」

神戸・山の手にプレミアムなシニアレジデンス 「コンフォートヒルズ六甲」がグランドオープン

セコムは、これまでに複数のシニアレジデンス事業を手がけてきました。ホテル並みの充実した施設を持つ「サクラピア成城」。豊かな自然に恵まれた「ロイヤルライフ多摩」。要介護の方に手厚いサービスを提供する「アライブケアホーム」。

そしてこれらの事業で得た経験をもとに、セコムの「安心」と「快適」への想いを集約して生み出されたのが、「セコムフォート」シリーズです。

第一弾として2006年10月、横浜・あざみ野に「コンフォートガーデンあざみ野」をオープン。

このコンセプトをさらに推し進めた「セコムフォート」シリーズ第二弾として、今年6月に「コンフォートヒルズ六甲」を港町・神戸にオープンしました。

設計は、日本を代表する建築家、安藤忠雄氏によるものです。周辺の自然と一体化した設計による建物は、セコムの提携病院である「神戸海星病院」と直結し、医療サポート体制も充実。ご入居者の健康管理に努めるとともに、大きな安心感を提供しています。

施設内には、自立と要介護をつなぐ新発想「カレア」という空間を設け、ご入居された方が、要介護状態になっても、できる限り自立した生活を送ることができるよう、専門のスタッフがお手伝いをさせていただきます。

メインダイニングでは、専属シェフが作る滋味あふれるメニューでお食事を楽しんでいただけるほか、趣味やアクティビティについても、陶芸や絵画などの創作活動、文化的な講座・講演や充実したライブラリーなどをご用意。ご入居者が、さらなる人生を謳歌するための理想のプレミアムな空間と最高のサービスを提供していきます。

セコムでは、こうしたシニアレジデンス事業を通じ、“快適に年を重ねていく”という選択肢を提供することで、高齢化が進む社会に貢献していきます。



一般居室(100m²タイプ)のリビング



「コンフォートヒルズ六甲」(左)と「神戸海星病院」(右)



自立と要介護をつなぐ空間「カレア」



ダイニング

セコム監修、「ハローキティ」の安全絵本『おやこでみにつく あんぜんえほん』が発刊

3月13日、子どもの安全について考えるセコム「子を持つ親の安全委員会」監修のもと、幼児向け絵本の出版社である(株)ポプラ社から、(株)サンリオの「ハローキティ」を主人公にした初の安全絵本『おやこでみにつく あんぜんえほん』シリーズ2冊が発刊されました。

「子を持つ親の安全委員会」は、小さな子を持つセコムの社員6名で構成され、セキュリティのプロとして、そして親としての2つの視点でこれまでに、わが国初の防犯絵本『白いおばけのすー』（駒草出版）などの監修を行い、子どもの安全についての啓発活動を行ってきました。

小さな子どもが犯罪被害に巻き込まれる事件は後を絶ちません。そこで、親子で楽しみながら犯罪や交通事故の危険を知り、回避対策を実践してもらいたい、という思いから本書の監修を行いました。

絵本の中にはクイズコーナーを設けるなど、子どもが自分で考え実践できる力も身につけられるように工夫を凝らし、好評をいただいています。



おやこでみにつく あんぜんえほん

- ①「キティちゃんのこうつうあんぜん」
- ②「キティちゃんのみちかなきけん おでかけ編」

©76,09 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. E-500603-2

第1巻(左)・第2巻(右)
監修:セコム「子を持つ親の安全委員会」
出版:ポプラ社 定価:各998円(税込)
体裁:20×20 32ページ

テレビ東京系「ロボつく」に「セコムロボットX」が登場

4月19日放送のテレビ東京系「空想科学バラエティロボつく」（毎週日曜日9時～9時30分）で、屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」が紹介されました。

この番組は子ども向けの教養バラエティ番組で、毎回テーマに沿った専門家を招き、子どもたちがロボットの最先端技術を学びながら、実際の取材やレポートにチャレンジします。

放送回のテーマは「暮らしを守るセキュリティロボットって何?」

ということで、セコムの屋外巡回監視ロボット「セコムロボットX」が登場。開発担当者の一人である本社開発センター・画像システムグループの梶谷忠とともに、スタジオで収録に臨みました。

セコムがロボット開発を始めた経緯から、実際に国内初の巡回監視ロボットが誕生するまでの開発秘話などが紹介された後、スタジオで実際に「セコムロボットX」を操作し、音声と光で不審者を威嚇する様子が放送されました。

梶谷は、テレビを見ている子どもたちに向け「ロボットはこれからの人々の暮らしに、より必要な存在になってきます。感受性を豊かに毎日、たくさんを発見してほしいと思います。夢に見たロボットを現実のものにできるようにしてください。そして将来はセコムに入社して、一緒に研究しましょう」とPR。セコムの最先端技術への取り組みを紹介する、良い機会となりました。



番組で紹介される「セコムロボットX」

高品質なセキュリティ機器を環境との調和を図りながら生産

セコム工業(株)は1977年に宮城県白石市に設立された工場で、高品質・高信頼性・低コストに加え、環境にも配慮したセキュリティ機器を生産しています。

主要な機器はセキュリティシステムの要であるセンサーとコントローラーで、「多品種・少量・短納期」というセコムの要請に応えるために、自己完結型セル生産ラインを構築しています。これはベルトコンベヤー方式と異なり、生産機種ごとに区画を分け、その区画内で部品の取り付けから組み立てまでを2〜3人で行う、効率のよい生産方式です。

製品の品質については、会社設立以来、全社員を階層に分けて行う品質教育と、各部署で社員が自発的に品質改善に取り組む小集団活動を実施し、また部品の受け入れから生産・出荷までの各工程で検査や監査を行うなど、品質の向上を追求しています。1994年に品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9002の認証を取得しています。

セコムグループのサービスシステムを技術力で支える、研究開発・製造・設置工事部門をシリーズで紹介します。第3回は、高品質・低コストで環境にやさしいセキュリティ機器を生産しているセコム工業です。

#003

サービス業のテクノロジー
セコム工業

環境問題への取り組みでは、ご契約先から戻ってきた機器で修理可能な機器は再利用し、不可能な機器は産業廃棄物処理専門業者が鉄やプラスチックに分別して別の用途に使用しており、リサイクル率は99.6%に達しています。この環境でも1999年にISO14001の認証を取得しています。

また部品の調達では、セコムが設定したグリーン調達基準に合致しているか、工場内に設置した蛍光X線装置でチェックしています。このほか、「緑の地球を子供達に残そう」というスローガンにそって、地元の小学校で環境教育を行っています。このように、「品質」と「環境」への取り組みを通して社会に貢献しています。

なお、セコム工業では1989年から植物工場を運営しています。水耕栽培で16種類のフレッシュハーブを生産し、東京や仙台の市場に出荷。無農薬とともに「色や形がよく香りが抜群」と、品質の良さで高い評価を得ています。



セコム工業(株)本社



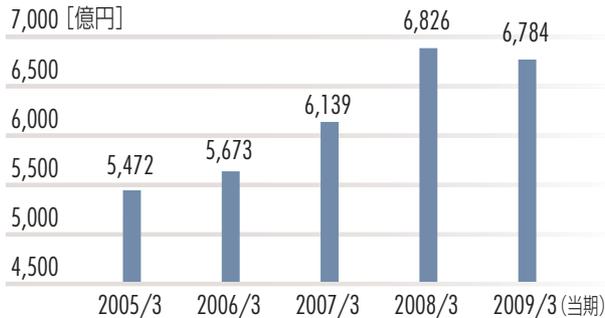
本社工場内部



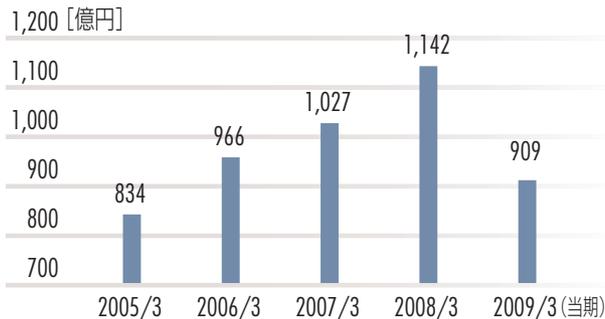
植物工場

連結決算 業績ハイライト

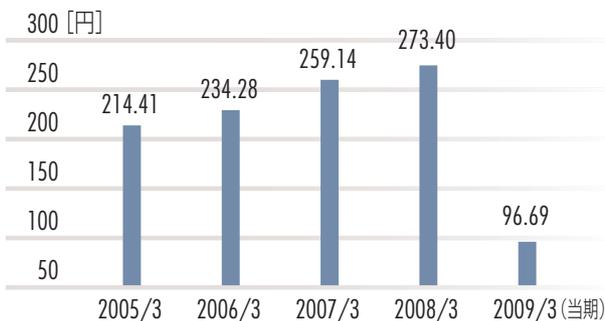
売上高



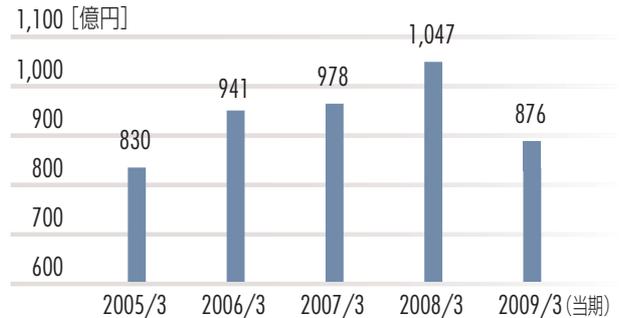
経常利益



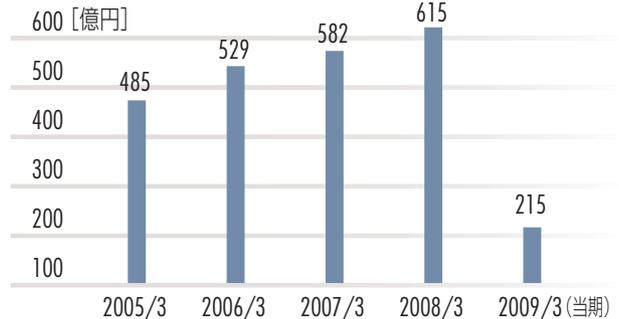
1株当たり当期純利益



営業利益



当期純利益



事業別売上高内訳 2009/3 (当期)

● セキュリティサービス事業	4,279 [億円]	63.1%
● 防災事業	841	12.4%
● メディカルサービス事業	352	5.2%
● 保険事業	303	4.5%
● 地理情報サービス事業	402	5.9%
● 不動産開発・販売事業	220*	3.3%
● 情報通信・その他の事業	383	5.6%



*第2四半期より「情報通信・その他の事業」から独立して表示

連結貸借対照表(要旨)

2009年3月31日現在

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	4,734
現金及び預金	1,274
現金護送業務用現金及び預金	566
受取手形及び売掛金	773
未収契約料	201
有価証券	167
リース債権及びリース投資資産	149
たな卸資産	282
販売用不動産	671
繰延税金資産	111
短期貸付金	41
その他	493
固定資産	6,166
有形固定資産	2,632
建物及び構築物	854
警報機器及び設備	656
土地	892
その他	229
無形固定資産	213
投資その他の資産	3,320
投資有価証券	2,019
長期貸付金	598
前払年金費用	188
繰延税金資産	244
その他	270
繰延資産	3
資産合計	10,904

負債の部

流動負債	2,566
支払手形及び買掛金	283
短期借入金	853
一年以内償還予定社債	50
未払金	231
未払法人税等	189
前受契約料	312
その他	643
固定負債	2,512
社債	126
長期借入金	153
預り保証金	342
退職給付引当金	138
保険契約準備金	1,670
その他	81
負債合計	5,078

純資産の部

株主資本	5,528
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,783
自己株式	△ 748
評価・換算差額等	△ 339
少数株主持分	636
純資産合計	5,826
負債純資産合計	10,904

連結損益計算書(要旨)

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期(2008年4月1日から 2009年3月31日まで)	前期(2007年4月1日から 2008年3月31日まで)	増減率
売上高	6,784	6,826	△ 0.6%
売上原価	4,447	4,330	
売上総利益	2,336	2,495	△ 6.4%
販売費及び一般管理費	1,459	1,448	
営業利益	876	1,047	△ 16.3%
営業外収益	129	201	
営業外費用	96	105	
経常利益	909	1,142	△ 20.4%
特別利益	4	27	
特別損失	278	49	
税金等調整前当期純利益	635	1,120	△ 43.3%
法人税、住民税及び事業税	417	426	
法人税等調整額	△ 32	26	
少数株主利益	35	52	
当期純利益	215	615	△ 65.0%

営業の概況(連結)

近年の凶悪犯罪の頻発や振り込め詐欺の多発などに伴い、安全・安心に対する社会的ニーズは、ますます多様化・高度化しています。このような状況下、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築を目指し、事業展開に邁進しました。セキュリティサービス事業を中心に、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業、地理情報サービス事業、不動産開発・販売事業および情報通信・その他の事業で、お客様のニーズに合った、質の高いサービス・商品を提供することに努めました。

この結果、当連結会計年度における連結売上高は、不動産開発・販売事業および情報通信・その他の事業の減収により6,784億円(前期比0.6%減少)となりました。連結営業利益は不動産開発・販売事業が保有する販売用不動産の価格の下落および販売用不動産評価損等の計上により876億円(前期比16.3%減少)、連結経常利益は909億円(前期比20.4%減少)となりました。連結当期純利益は当社およびセコム損害保険株式会社、能美防災株式会社等の投資有価証券評価損206億円、株式会社パスコの訴訟損失引当金繰入額24億円、セコム損害保険株式会社の訴訟解決金10億円の計上に加え、国内子会社において繰延税金資産の一部の計上を見送ったことなどにより215億円(前期比65.0%減少)となりました。

<参考> ●連結子会社数 164社
●持分法適用関連会社数 31社
●1株当たり当期純利益 96円69銭

連結株主資本等変動計算書(要旨)

2008年4月1日から2009年3月31日まで

<単位: 億円> *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2008年3月31日残高	663	830	4,759	△448	5,805	△133	630	6,302
実務対応報告第18号の適用による影響額			△ 0		△ 0			△ 0
剰余金の配当			△191		△191			△191
連結当期純利益			215		215			215
自己株式の取得				△300	△300			△300
自己株式の処分		△ 0		0	0			0
自己株式処分差損の振替		0	△ 0		-			-
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△206	6	△200
連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	23	△300	△276	△206	6	△476
2009年3月31日残高	663	830	4,783	△748	5,528	△339	636	5,826

貸借対照表(単体・要旨)

2009年3月31日現在

<単位: 億円>

*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部

流動資産	1,348
現金及び預金	311
現金護送業務用現金及び預金	542
未収契約料	116
売掛金	67
たな卸資産	67
短期貸付金	118
その他	124
固定資産	5,450
有形固定資産	1,218
建物	230
警報機器及び設備	630
土地	283
その他	73
無形固定資産	71
投資その他の資産	4,161
投資有価証券	212
関係会社株式・出資金	1,946
長期貸付金	1,431
長期前払費用	264
前払年金費用	145
繰延税金資産	147
その他	13
資産合計	6,798

負債の部

流動負債	1,507
買掛金	23
短期借入金	608
未払金	147
未払法人税等	118
預り金	284
前受契約料	227
その他	97
固定負債	242
預り保証金	181
退職給付引当金	47
役員退職慰労引当金	11
その他	2
負債合計	1,749

純資産の部

株主資本	5,048
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	4,303
自己株式	△748
評価・換算差額等	0
その他有価証券評価差額金	0
純資産合計	5,049
負債純資産合計	6,798

損益計算書(単体・要旨)

2008年4月1日から2009年3月31日まで

<単位: 億円>

*注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

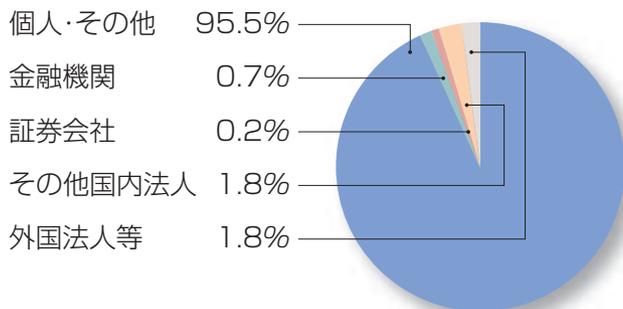
売上高	3,368
売上原価	1,938
売上総利益	1,430
販売費及び一般管理費	704
営業利益	726
営業外収益	97
営業外費用	39
経常利益	783
特別利益	0
特別損失	270
税引前当期純利益	513
法人税、住民税及び事業税	267
法人税等調整額	△78
当期純利益	324

<参考> ●1株当たり当期純利益 145円76銭

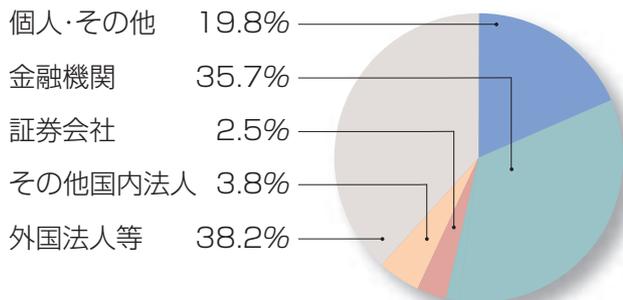
株式の状況 (2009年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数	900,000,000株
2. 発行済株式の総数	233,288,717株
3. 単元株式数	100株
4. 株主数	30,859名
5. 所有者別状況	

● 株主数比率



● 株式数比率



*個人・その他には、当社所有の自己株式(6.5%)が含まれております。

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 6月下旬
- 剰余金配当の基準日 3月31日
- 中間配当制度 なし
- 公告方法 電子公告
<http://www.secom.co.jp/koukoku/>
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 上場証券取引所 東京、大阪
- 証券コード 9735
- 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座管理機関
- お問い合わせ先 〒137-8081
 郵便物送付先 東京都江東区東砂7丁目10番11号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 ☎ 0120-232-711

● 各種手続書類のご請求 (24時間対応)

☎ 0120-244-479 (音声自動応答)

インターネットから
 のダウンロード <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

住所変更、配当金振込指定・変更、相続手続
 単元未満株式の買取請求・買増請求 など

※三菱UFJ信託銀行では、特別口座に記録された株式に関するお手続きのみを取り扱っております。ご自身で開設したお取引口座に記録された株式に関するお手続きは、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100 Fax: 03-5775-8902

- 資本金 66,377百万円
- 社員数(グループ総数) 49,145名(2009年3月31日現在)
- 事業内容

1962年、日本初のセキュリティ会社として創業。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年からは、移動する人物・車輜向けの新たなセキュリティサービスを開始したほか、常駐警備システムや現金護送システム、各種安全商品などの販売を通じて、社会に安全・安心を提供しています。

セコムグループは、社会にとって安心で、便利で快適なサービスシステムを次々に創造し、それらを統合化・融合化して、トータルな新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築をめざしています。

取締役(2009年6月25日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
取締役(最高顧問)	戸田壽一
取締役会長	木村昌平
代表取締役社長	原口兼正
取締役副社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務取締役	伊藤 博
取締役	伊東孝之

監査役(2009年6月25日現在)

監査役(常勤)	荻野輝雄
監査役	常松 健*
監査役	安田 弘*
監査役	山下耕平*

*印の3氏は社外監査役であります。

執行役員(2009年6月25日現在)

代表取締役社長	原口兼正
取締役副社長	前田修司
取締役副社長	佐藤興一
専務執行役員	秋山勝夫
専務取締役	小幡文雄
常務取締役	桑原勝久
常務取締役	中山泰男
常務執行役員	森 誠一
常務取締役	伊藤 博
執行役員	小河原俊二
執行役員	高岡 実
執行役員	森下秀生
執行役員	小松崎常夫
取締役	伊東孝之
執行役員	小松良平
執行役員	鹿野輝夫
執行役員	角田幸生
執行役員	中村直英
執行役員	竹田正弘
執行役員	吉村輝壽

株式に関するインフォメーション

株主様のお名前およびご住所の登録について

株主様のご住所およびお名前に、証券保管振替機構（ほふり）で指定されていない漢字等が含まれる場合には、ほふりが指定した文字に置き換えて株主名簿に登録しております。この場合、株主様への送付物の宛名も置き換え後の文字となりますのでご了承ください。

特別口座に登録された株主様へ

特別口座では、会社への単元未満株式の買増・買取請求はできますが、第三者との株式の売買はできません。売買するにはご自身で証券会社等に開設した口座に振り替える必要があります。

単元未満株式(100株未満)をご所有の株主様へ

単元未満株式買増・買取請求制度のご利用をお勧めします。

例) 当社株式60株をご所有の方

買増制度を利用

以下のように、当社より40株を購入することができます。

60株 (ご所有分)

40株 (当社より市場価格で購入)

100株 (1単元)

買取制度を利用

ご所有の60株を、当社に市場価格で売却することができます。

*お手続きに関するお問い合わせ先は、17ページの「株主メモ」をご覧ください。

当社ホームページ
のご案内

当社ホームページでは、会社情報、企業理念、商品・サービスの情報、財務情報を含むIR情報、株式に関する情報など当社に関する情報を幅広く提供しております。

セコム

検索

<http://www.secom.co.jp/>

IR・株式情報へは、
トップページから「企業情報」→「IR情報」
を選択してください。

表紙写真のご説明

コンフォートヒルズ
六甲
(兵庫県神戸市)

右手奥のT字型の建物がこの6月1日にオープンした「コンフォートヒルズ六甲」です。手前の黄色い屋根の2棟がセコムの提携病院「神戸海星病院」です。「コンフォートヒルズ六甲」は「神戸海星病院」と一体化した不安のない暮らしを実現するシニアレジデンスです。

